二十二日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月 金六十錢
□郵税 金十五錢
□一部賣 金三錢
□廣告料一行 金六十錢
□雜報欄 金九十錢
□場所指定一行 金一圓增
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八五六五
福島縣平市田町十六番地
發行所 磐城毎日新聞社
發行編輯兼印刷人 森合英

開拓士魂

店子と家主の爭ひ

（小名濱）　隣り組員

小名濱町上横町の家主某が箱崎某へ一月四圓五十錢の店賃で貸家してゐたところ、三月前から四圓八十錢に値上げした爲、箱崎某は成丈高と成つて警察沙汰にし『七、七禁令を無視してゐる』と騒ぎ廻つてゐるが、家賃統制令を犯し店子に無斷で値上げした家主は、額が尠なくも確かに行爲は悪い、然し僅か三十錢の値上げを警察沙汰にまで騒ぎ廻つてゐるのもどうかと思ふ。

昔から家主と店子は親子の關係と云はれて居り、家主も店子も忍ぶべき處は忍び、問題化にしないで辛抱し、一億一心と成つて非常時局を突破することこそ大政に翼賛するの以所であると思ふ。兩者は他の仲介を俟つまでもなく宜しく大乘的に圓滿妥協することをお奬めする。

『商人風』

武藏山人

『役人風を吹かす』と云ふ言葉がある。威張り散らすとヤユした言葉で、勿論お役人のみに通用する言葉だつた。然るに最近商人にもこの言葉が適用されるやうである。顧額が頭を下げ、商人が威張り散らす、何となく『商人風を吹かしてゐる』といつた感じで、物を買ひに行くのがおつくうに成つた。

商人が商人らしく客に對してこそ新体制に沿ふ所以と思ふから客に對する親切を忘れぬやうにして貰ひたものである。

文藝

たとへば萬葉集など永久に僕等民族の運命を決定した祝祭ではなかつたらうか　（芳賀檀）

山口ハルエ先生の思出

和田文夫

（五）

計報を受けた夕方思ひ出して掘つて見ると一寸ばかりのところは氷つて未だ解けずにあつたが、その中で薄黄色な若い芽が五、六分ばかり伸びてゐたのがとても懐しかつたしばらく見てゐたがそのまゝそつと土を盛つてやつた、近く又花を見せて呉れるであらう。

先生と共に食卓を圍んだ事が幾度もあつたが私はあまり魚類を好まぬので、會津から來た豆だと言つて煮豆を食べさして呉れた。煮豆は私に取つて最も好物なものなので盛んに口へ入れたものだつた。それを見てこれを蒔きなさいと種子を分けて呉れたのだが磐城地方では見られない眞青い大きなやはらかな豆で非常にうまい。今でも時々私の食膳にはこの豆が載せられてゐる。

かうして思出を書いてゐると「しらないから」と口をすぼめて物を言ふ有様が眼前にちらつく。

黒澤尻でも相變らずそれを口にしながら、肉も魚も野菜も自から街へ出て買つて來られ朝等はあなたは若いから大きなのへ詰めますよと、辨當を作つて呉れたのだつた。歸る時には、「私が買つて來たの行きなさい」と砂糖包みを出して呉れた。磐城では思ふやうに買へなかつた頃だつたし有難く戴いて來たのであつたが、極めて元氣だとのみ思つて來たのであつたが、既に黒枠の付いた「御蔭で葬儀も無事取り濟した」と言ふ書を受け取つてゐるのである。

俳句

雜詠

一步

古俳諧すねたる文字にしたゝみぬ
菊の會に爭議の人も參じたり
無爲一年草庵古りし年暮哉
小城跡に狐のなくやつめた月
萩の露こぼるゝと見し月の宿
指呼の中に上信の境霧晴れし

宵闇

初雪の馬糞小高き七ツ八ツ
作事場や障子影濃き雪の朝
禽鳥の影濃き朝や輪轉機

風花抄

渡邊何鳴

風花を往き日輪を額にせる
凍てを往くおのが跫音をかへりみる
炭窯の火のあかき見ゆ凍る夜も
北風すさぶ木原のはてに海蒼き
冬山の發破のひゞき扉にこたふ

連續講談

異說赤穗浪士

（131）

桃川若燕
畫　城木喬

年增女の濃情

『……たとひ二目と見られない女にしろ目を閉ぢて我慢をしなければならないのを彼の年增は女は好し、金持ちの後家云ひ分はないぢやないか』

『そんな事は以ての外、如何に斯樣な姿にならうと武士として』

『シツ、靜かにしなけりやア不可ない……何かといふと侍口調、壁に耳ありの習ひ、これも主君のためではないか、マア考へても見なされ、昔から今迄に主、親、天のために肌身を汚して忠や孝や貞を立てた女が幾人もある。操を捨てゝ操を立てるといふくらゐで、女といふものは男と違つて一度仇し男に肌身を觸れたら幾ら拭つても洗つても落ちぬ汚れが身体に沁みこんで了ふ、夫れでも血の涙を呑んで操を捨てるのだ。忠義のためならどんな女に掛り合つたつて何も遠慮ずるには當らない、俺なら得たり賢しと飛んで行くんだが、其處が旨く出來てゐる先方樣で鼻もひつかけてくれないのさ、萬一にも向ふの邸内のことが知れず討ち入つたとしても當の仇の姿も見えずとしたらどうなる、城代が山城京地と放埒の限りを盡すのも忠義のため、お主がアノ大年增を嫌つては忠義に欠けはせぬか、忠義の爲には女の一人や二人手に入れても武士道は廢らぬ』

前原伊助の五兵衛に說かれてみると和七も嫌とは云へない

『とにかく出來るか、出來ぬかやつてみませう、どうも弓だの劍術なら譯はないが女の相手は余りなれませんからな』

その翌日金田屋の奥では女主人のお蘭が和七の來るのを心待ちに四ツすぎてから風呂に入つて念入りに化粧をして火鉢の前で待つてゐる。とこころへ吉良家の使ひの男の傳八といふ男がやつて來る。

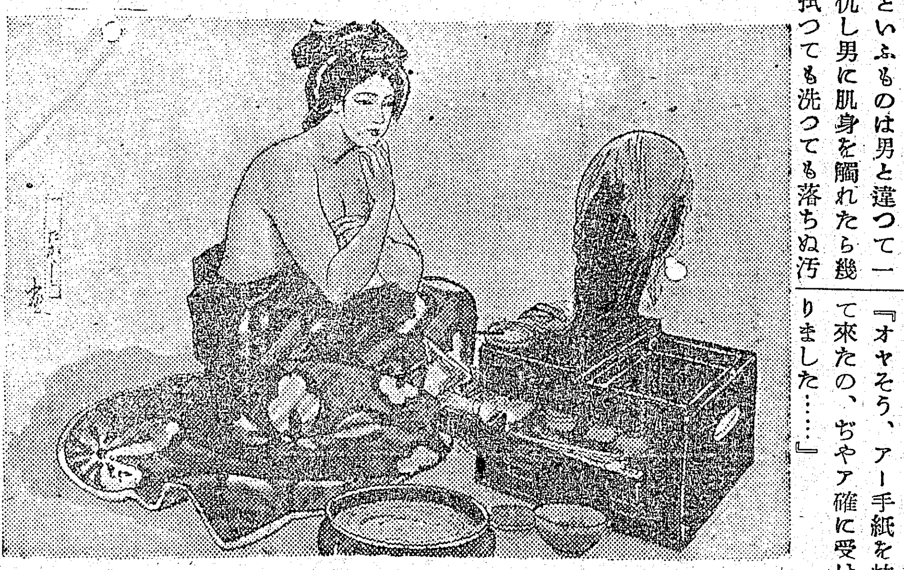
『オヤ、傳八さん、少し今日は時雨ましたね』

と云つたがお蘭の腹では早くかへしてしまひたいのだ

『何ぞ用事？』

『ヘエ、松坂町からのお使ひで參りました』

『オヤそう、アー手紙を持つて來たの、ぢやア確に受け取りました……』



『では失禮いたします』

『どうも御苦勞樣』

傳八がかへつて行つたと入れ違ひに下女がバタ〳〵やつて來て

『お内儀さん、米屋の和七さんが御注文の品を持つて參りました』

『アヽ左樣かい、先刻から待つてゐたんだよ、早く此方へ通しておくれ』

年增女だが戀に盲目になつてゐるときは仕方ないもの、嬉しさがコミ上げて來たものかソハ〳〵して火鉢の火を直したり、着物を掻き合せたりしてゐる、

『御免下さいまし、米屋和七でございます』

『和七さんかい、よく來てくれだつた、先刻から待つてゐたところなんだよ、サア〳〵火鉢の傍へ寄んなさいよ』

『ヘエ、有難う存じます、お頼みの件で昨日から諸方を驅け廻りましたが、藥研堀で漸く色本のいゝのを見つけましたから持つて參りました、どうぞ御覧なすつて……それから御注文の反物も品々取揃へて持參いたしました』

『オヤさうかい、嬉しい事、夫れよりも寒いから、お前さんが冷るだらうと思つて一寸酒の支度をしておいたから一口遣つたらどう』

『これは恐れ入ります、そんな事をして頂いては冥利に盡きます』

『何んだね、この人は……サア熱いのを一つお上りよ、いつまで私に德利を持たせておくの』

と、大年增の濃情は、和七を醉はす下心、……今日は和七も覺悟してゐますから献される儘に盃を重ねます。

磐城セメント
小賣指定
大谷石を賣始めました
野内商會
平市南町
電話一一番

木炭不足を補ふ黄金燃素
木炭一俵（四貫匁）用僅かに拾五錢にて松炭やボヤ炭又は煉炭タドン豆炭にても火附き能く堅炭同樣火力は二倍以上にて且つ永持ち致しますから御徳用です
油のシミでも垢でも揉まず落る垢トール
一袋 貳拾錢
一箱 五拾錢
毛織物、作業服、木綿物絹物、スフ、人絹等のよごれを浸すだけで揉み洗ひの必要なく十分間にて生地を傷めず又絶体縮まずフックラと新品同樣に洗濯が出來ます毛髪、疊、夏帽子、皿、丼等の油あかも綺麗に落ちます右一度御試用を願上ます
【販賣店募集】
平市四丁目角
菅野屋商店
電話一五七番

大衆向きの小口保險
三百圓より大口契約も
板谷生命保險株式會社
小名濱代理店 比佐政種
好條件で外交員募る

お宅の体温計は正確ですか？
毎月十日は無料で体温計を檢査して差上げます、どうぞ御遠慮なくお持ち下さい
營業課目
醫療藥品
有名賣藥
食糧品
寫眞機材料
吸入用酸素
工業藥品
衛生材料
染料塗料
化粧品各種
計量器各種
計量器指定販賣所
みやこ染特約店
資生堂
小名濱町本町通り
電一四七

口腔外科、齒科一般
レントゲン科
門馬齒科醫院
院長 門馬忠男
小名濱町中島通

肺、肋膜、心臟、胃腸の弱い方に
血となり肉ともなる
「生血の生膽」を
スッポン
生スッポン
岡崎スッポン店
平市六丁目本町通り
養龜所 平市正月町一番地

謹告
今回其筋の慫慂と各業者新体制下に即應して市内六タクシーを合同致し營業所を平驛前元昭和タクシーに設置致し營業開始仕り候
從つて今後は一切當營業所以外に於てはタクシーの御用命は申受けざる事と相成り候條倍舊の御引立御願申上候
昭和十六年一月十日
有限會社 平合同タクシー
電話三四三番
御得意樣各位

フクロク・ストーブ
入荷のお知らせ
◎久敷品切れ致し居りましたが此度少々配給入荷致しました
◎此度の入荷で當分入荷の見込みはありません
御入用の御方は品切れにならぬ中に成るべく早く御注文下さい
【御希望の方へカタローグ「公定價」を差上げます】
平驛前
阿部石炭店
電話37番、137番

純綿 純毛品提供に就て
◎純綿、純毛の更生品提供に就て當店主伊關房次は日露役に參加し奉天戰に負傷、傷痍軍人の呉服商となつたが今支那事變に資材充分でないところから商業組合理事として配給使命を達成すべく全國産地を視察見學の際思ひ付たのが更生品の配給である、これならば農山村から確かに喜ばれ樣と昨年から始めたところが異常な好評を受けてゐるのであります
どうぞ御遠慮なく御覧下さい。
純綿、毛オーバ、背廣、ジャンバー
野良着、ズボン、カスリ、その他
平市二丁目角
伊關呉服店
電話三三三番

新体制下の女性に
◎社會待望の高尚なる婦人職業
◎又は日赤志願の準備として
産婆看護婦をお奬め致します
三十六回 生徒募集
平南町
◎今申込の時期
産婆看護婦學校へ
平産婆看護婦學校
電話三〇七番

▲男女車掌募集
平市四丁目
鈴木自動車部
電話二二七番

手術室完備
外科專門
野村外科
小名濱町古港
元津村屋跡

入院隨時
根本 産婦人科 醫院
平市南町 電話三四番
根本莊次郎
根本貞雄

耳鼻咽喉科專門
レントゲン科
平驛前
高柳醫院
電三三六
醫學博士 高柳博明

附屬産院 新設
姙産婦入院隨意
産科 婦人科
木村病院
平市新川町
電話一六四番

病室增築、手術室完備
産科 婦人科
醫學博士
五十嵐雄二
平市新川町
「電話三六九番」

外科一般
内臟外科
性病科
肛門病科
▽入院應需△
木村醫院
平市南町（警察署通り角）
外科 木村淳
電話三〇九番

内科
小兒科
物療科
◎入院隨時◎
四倉町本町
菅波醫院
電話六三番

齒科一般
口腔外科
石城郡草野村驛前
坂本齒科醫院
院長 坂本惣次郎

改正 國民學校令 義務教育八年制が主眼點

『國民學校令』の改正案は二十日樞府の御諮詢を經て御裁可を仰いだので、關係諸法令の改廢と共に愈々四月一日から實施することに成つた、我が國普通義務教育に劃期的改正を齎らし、現在尋常科六年制の義務教育が初等科六年、高等科二年と八年制に延長され、勤勞と體練に力を注いでゐる、

點が注目される。改正要點を擧げると六年義務制を八年に延長されたことを主眼に、バラ〳〵だつた課程及編成上に次の如く統一した教育方針を樹てゝゐる、

⊠初等科

△國民科、修身、國語、國史、地理

△理數科、算數、理科

△體錬科、体操及武道（但し女兒は武道を缺くも可）

△藝能科、音樂、習字、圖畫（初等科の女兒には裁縫科を、高等科女兒には家事と裁縫を加へる）

⊠高等科、

初等科目に實業科と外國語其の他の必要科目を設ける

△實業科、農業、工業、商業又は水産科を設くる

時限は現在の一時間四十五分を四十分に短縮、授業時數は増加するが總体的な授業時間は増さず、精神的な負擔輕減に重點を置き體錬藝能等を適度に按分、科外時間も取容れる教室の收容數も現在止むを得ざる場合八十名まで認めてゐるが六十名を絶對的に超ゆるを得ないことになり、學校の施設方面も改善される就學方面では貧困のため免除されたのが改正法では全然認めず、初等科から中學に入學一、二年で退學した場合原則的にもう一度高等科で修學し二年課程を修了せねばならぬ

安齋支店長 蒙疆へ勇躍

三月一日後二時赴任

福島貯蓄銀行平支店長安齋護氏は張家口市の蒙古聯盟自治政府蒙疆糧穀總聯合會參事として招聘され支店長を辭任三月一日午後二時十分平驛發列車で單身赴任することに成つた

同氏は貯蓄銀行入社以來十五ヶ年勤續し昭和十一年平支店長に就任間借りの支店を現在の建物に移し同支店を今日の發展へ導いた功勞者で轉出を惜しまれてゐる

平市の道路占用に 許可制實施さる

違反者は使用料追徴

平市では『道路占用規程』を設定し道路の取締りを勵行することに成り道路の使用には市長の許可を要し公共關係以外のものは使用料を徴收される

1、電柱類建設、一本に付（本柱、支柱、支線）各別年額金三圓五十錢以内

2、鐵管、鉛管、木竹管其の他地下埋沒物及橋渠加設物の設置、延長一間の年額五寸以内十錢、一尺以内十五錢、一尺越ゆるもの二十錢

3、建物其の他工作物の設置、一坪年額、金一圓以内

4、軌道敷設一坪年額、金一圓以内

5、前各號以外にして之と類似のものは各種目に準ず

6、其の他前各號に該當せざるもの一坪年額一圓以内

許可又は承認を受けずして占用したるときは占用料最高額の二倍金額を追徴されることもあるから占用には特に注意を要する

石城の小學校史

敎則發布當時ど隔世の觀

明治五年學令が發布され次いで全十三年「小學校敎則綱領」が發布、小學校を初等科、中等科高等科の三科に分けられた、當時の石城郡（菊田、磐前、磐城）の學齡兒童は一萬二千四百二十四名あつたが就學したもの僅かに四千三百三人女兒はこの内八百十一名に過ぎず就學率は五十一人一分と云ふ兒童敎育に無關心狀態であつた

明治十九年の改正令で稍整備し、學校數は簡易校十九尋常科四十、高等科一校となり當時の高等科は現在の中等學校以上にも當る上級學校であつた、超えて全三十三年十月更に改正され簡易學校も廢止尋常科五十校高等科一校となり同三十九年の改正には五十九校に増加、同四十年八月義務敎育六年制が發希され同四十一年から實施、同時に高等科も二年制と成つて今日に至つたものである

現在石城、平兩郡市の學校數は學校數五十七校（平四校）敎室六百三十六（平七十）内初等科（尋常科）のみの學校は十七校（平一）あり、尋常六年生までの初等科兒童は石城郡一萬六千八百三十九名、平市二千百七十九名（高等科を除く數）に上り明治中頃に比較すると全く隔世の觀がある

鑑札手數料

平市の鑑札再交附に依る手數料は次の如く更められた

舟鑑札	一枚	二十五錢
犬鑑札	同	二十五錢
自轉車	同	三十五錢
荷車	同	三十五錢

市公益質屋 貸金增加

庶民の利用價値昂る

平市公益質屋條例が昨二十一日の市會で改正され今後は生業資金として一口につき五十圓、一世帶に付五百圓まで貸付けを行ふことになり庶民の金融機關たるの道が開かれた

郷土の傳說（7）

"蛇"物語り 戸田の"蛇塚"

大野村大字戸田地内

【戸田の蛇塚】

昔、本郡大野村大字戸田の籌作といふ所に角兵衛といふ百姓があつた。或時用事があつて朝早く四倉に出掛けた。角兵衛の家から少し來ると今笠松といふ土地があるが、昔はそこに大きな笠の形をした松があつた。行手には鬼越山が横はつてをり、あたりはうす暗く、何となく寂く、吹く風の音も凄い感がある。ふと松の木の上を見上げると一匹の大きな蛇が爛々たる眼を輝かして自分に襲ひかからうとしてゐる。

吃驚した角兵衛は『畜生奴』と舌打ちして我知らず一間ばかりもたじろいた。そして折角用事で早朝から出掛けて來たのに此蛇の奴が自分を邪魔してゐるやうに思はれていま〳〵しくなつた。彼は何を思つたか、すぐ家に引返して來た。眞青な顔をして突然歸つて來た角兵衛の顔を見て、妻女が『どうかしたのかえ…』と心配さうに尋ねた。物もいはずに立つてゐた角兵衛は、『おい、鐵砲を持つて來い』とどなつた。妻女がおろ〳〵しながら『どうするのだえ』と聞くと『なあに笠松に蛇の畜生がゐやがつてあぶなくかぶりつかれるとこだつた、えめえましいから鐵砲でぶつ殺してやらあ』から答へた。妻女が『つまらん殺生はおよしなさい、蛇はあとでたたると世間でもいつてゐるのに』といつて、しきりにやめさせようとして見たが一徹な角兵衛は耳にもかさず鐵砲を持ち出してふたたび笠松の所へやつて來た。

蛇は相變らず逃げようともせずに悠々として巨体を松の木に巻きつけ鎌首をもたげ眞赤な舌を動かしてゐた。充分ねらひを定めた角兵衛は思ひ切つてひきがねをぐつと引いた。轟然一發散彈は蛇の頭のあたりにめりこんだ。忽ちたら〳〵と赤い血汐が數ケ所から滴り落ちた。その中にどさりと音を立てて蛇の巨体は地上に落下して來た。その無慘にも頭のあたりを打たれ血に塗れた蛇の姿を見た角兵衛は流石に何かしらゾツとするやうな氣味惡さをおぼえた。そしてその日はそのまゝ四倉行をやめて家に歸つて來て寢てしまつた。

その晩角兵衛は恐ろしい夢を見た。蛇に追ひかけられて逃げても〳〵追つて來る、とう〳〵海の中に追ひつめられた。今は絶對絶命どうにもならなくなつた所で夢はさめた。眼をさまして見ると汗がびつしより出てゐた。角兵衛は翌日暗い氣持になつて蛇の死骸をとりかたづけた。そうして土を掘つて丁寧にそれを葬つた。しかしこのことあつて以來今まで酒屋として相當に暮らして居つた角兵衛の家には何や何にやと不吉なことが續いた。

この戸田の蛇塚は四倉驛から十四、五丁の所にあつてその子係も現存してゐるといふことである。

おちの良い マルミ練石炭

四倉警防團へ 感謝狀

列車事故の功勞に報ゆ

四倉驛構内の列車追突事件に際し死傷者の救護や線路の復舊作業に獻身的に盡力した同町警防團に對し、仙台鐵道局長野中春三氏は金四百三十圓に感謝狀を添へ表彰した

陽氣の惡戲

農試の講習生八名 ニセ刑事に素裸にさる

二十一日午前十一時半頃縣立農試分場（草野村）の講習生草野儀平（二七）君外七名が晝休に夏井川堤防で日向ばつこしてゐた處へ一人の怪青年が現はれ『俺は平署の刑事だがお前達は不良少年だらう』と型の如く一人々々の住所氏名を聽いたあげ句草野君外七名全部を素裸にして所持品を調べ上げたので、講習生一同も刑事君の擧動を怪しんで一人が分場へ驅けつけ報告、矢ケ崎技手が飛び出して來るのを見るや斯の刑事君狼狽して逃げ去つた、調べられた一同も『追はぎだ……』一齊に追跡鎌田橋を渡つて追ひつ追はれつの活躍を演じ、遊廓附近の田圃で遂に捕はれ泥だらけに成つて平署へ突き出された

取調べの結果、この僞刑事は市内六丁目左官職丸山王助（一九）假名で『夏井川の土堤をブラ〳〵散歩してゐる内に陽氣のよいのに惡戲を思ひついた』と自白、ブタ箱へ入れられた

實害はなかつたので取調べの上說諭を加へて釋放するものと見られてゐる

處女航の南洋から 無電「八紘丸」豊漁

鮪五萬餘圓積んで來月歸港

南洋漁場を目指して初航海の小名濱町磐城水産工業所有船八紘丸はキワタ鮪一千二百尾漁獲し歸航についた無電が本社へ入つたが、この推定價格は約五萬圓と見てゐる、三崎港への入港は來月二、三日の豫定

尚ほ小名濱町三代義勝氏所有第一大勝丸、東日本漁業の東日本丸も何れも豊漁して相前後し歸港の途にある

今尊德、草鞋村長招き 體驗聽く講演會

廿六日公會堂の催し

石城郡聯合青年團第三方部會（好間、內鄉、飯野、高久、豊間、夏井、赤井、小川、川前）では〝わらぢ村長〟として全國に有名な宮城縣鹿島台村長鎌田三之助翁を招聘して二十六日午前九時から平市公會堂に春季總會を開き、全十時から鎌田翁の講演會を開催する

鎌田村長は代議士たること三期、長く村長の職にあつて日本一の貧乏村を模範村に改善した功勞者で『今尊德』の稱あり、今次事變以來『贅澤廢止、勤儉貯蓄・生活刷新』の警笛を高く鳴り響かせつゝわらじばきで全國を行脚、全國に農村の戰時体制を說得し獻身的に努力を拂ひつゝある篤農家で青年團では尊い体驗談を聽くため一般に公開多數の來會者を觀迎してゐる

渡邊教化村 開所式

元知事赤木朝治氏來村

本縣の教化村に指定された石城郡渡邊村の『教化村開所』は既報の如く二十八日午前九時から同村小學校に擧行するが當日中央敎化團体聯合會參與元本縣知事赤木朝治氏並に同會主事補岡本正平氏が臨席午後一時から講習會がある

指定された全村は常會を活用して村內の休制を整備し縣內の模範村と成つて他村の指導に當ることになるため全村擧げて張り切つてゐる

郡內荒しの 鼠賊捕る

湯本生れの不良少年

平市及び湯本、江名方部に本年一月中旬頃から同じ手口のスリと小窃盜被害が頻發するので其の筋で犯人嚴探中であつたが去る十一日市內徘徊中を取押へた二名の賊が意外にも同犯人であることが判つた賊は何れも湯本町生れ佐藤廣一と稱する年若いもので一月二十四日材木町高橋はつが常陽銀行平支店前の露店脇の人混みに立つてゐたのから二十余圓在中の蟇口をスリ取つたほか前記各地の十七名から五圓乃至五十圓のスリ窃盜を自供した被害額四百三十圓は平市內某所三種料理で遊興に費消してゐたものである

四倉大敷網 奉職準備進む

四倉町鈴木幸次郎氏經營の大敷網は三月下旬までに奉職の投網を行ふべく早くも岩手縣の漁師二十餘名乘込んで準備を進めてゐる

四倉校の移轉 漸く着工

新學期までに完成

四倉小學校舊校舍は工費一萬五千余圓で西側に移轉するが此程移轉許可があつたので工事に着手新學期の四月までに完成の豫定である

川部村長改選 園部助役昇格

石城郡川部村では村長加藤元吉氏の任期滿了で此の後任選擧をなし元助役園部茂氏當選した

平市銃後奉公會で 郷土部隊慰問

市內全戸から慰問袋募集

平市銃後奉公會では過般來第一線の郷土兵慰問を計畫してゐたが來月五日發送する豫定の下に愛婦、國婦、郷軍、青年團等の協力を求め市內全戸から左の如く慰問袋を募集することに成つた

△國婦第一、二、三分會が各百六十個宛△第四分會十八個△同第五分會、五十七個、計五百五十五個

平土木管內の 未起工調査

今廿二日で全部完了

平土木監督所管內には十三年度の災害の河川、道路で未起工のもの約十三ケ所を數へられてゐるが右に對し去る二十日から縣土木課の鈴木技師出張須賀所長と共に二十日は四倉、大野方部昨廿一日は植田山田方面今二十二日は上遠野石住方部の實地調査を行ひ湯本、石川線から石川土木監督所管下の同調査に移つた

重要物資の 在庫調査

町村主任へ縣で指導

縣經濟部では今二十二日午前九時から石城郡下各町村產業關係者を團体事務所に集め重要物資としての木炭、藥品類鐵類、酒、味噌、醬油その他の在品に關し出張の係屬より指導打合せをなすところがあつた

磐城無盡の 遷宮式

優良社員表彰も行ふ

平市大町磐城無盡會社では本社々屋內に豫て社殿造營中であつたが此の程竣工、伊勢神宮に參向し皇大神宮を勸請去る二十日歸着奉遷したので明二十三日午前十時奉祝祭を執行し小宅社長ほか社員をはじめ隣組內一同を招聘して遷宮參拜の式を擧ぐる筈であるが尚ほ當日午前十一時から昨年後期の成績による社員の行賞式を行ふことになつた

葬儀費節約 市井さん寄附

平市田町辯護士市井茂氏は亡父茂三郎さんの葬儀費用を節約して平市銃後奉公會へ二百圓寄附

◇

同田町木幡林助氏は金十圓也銃後奉公會へ寄附した

警防委員會

平署武道場に開く

警防協會平地方委員會は來る二十四日午後一時から平署武道場に開催、來る三月三十一日警防團共濟基金造成の爲め平市に於て催す東京大相撲興行について打合せをなす筈

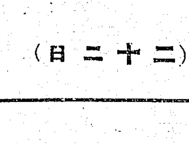
水稻品評會

石城郡磐崎村と渡邊村の聯合水稻品評會に於ける褒賞授與式は明後二十四日午後一時から同村小學校で擧行する

健保組合協議

今廿二日平市に開く

國民健康保險組合協議會は今二十二日午前十時より市議事堂に開催、縣社會課の一條氏より國民の体位向上と醫療の萬全を期する見地より、國民健康保險組合の必要なる所以を述べて後協議を行つた。出席者は植田、飯野、好間、大浦、草野、及び双葉郡大堀・新山、龍田等の各町村係吏員



（二十二日）

【野菜】平青果市場調べ

葱	一貫目	十五錢	十錢
人參	同	十五錢	十錢
油菜	同	六錢	三錢
ホウレン草	同	五十錢	四十錢
牛蒡	同	五十錢	
里芋	同	五十五錢	
馬鈴薯	同	四十七錢	
大根	同	十二錢	五錢
白菜	同	二十五錢	
大和薯	同	一、三〇錢	

【鮮魚】平魚市場調べ

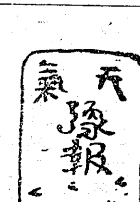
平目	百匁	五十四錢

（時化のため入荷なし）

平市慶弔錄

【婚姻】△茨城縣多賀町大野勝次（二八）さんと平市研町十五番地佐藤トメノ（二六）さん△平市中鹽字松山二十一番地地引占義（三一）さんと平市長橋町十一番地川崎かね（二九）さん

【死亡】平市新川町十四番地辻〆子（二）

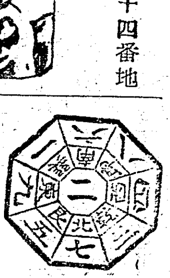


（二十三日）

今晩　北西の風やゝ強く晴れたり曇つたりの天氣

明日　北西の風後西の風晴れ勝の天氣ですが後曇ります

滿潮 前三、五〇 後一、三五　干潮 前八、三五 後九、一五



新 二月二十三日 日曜

舊 正月廿八日

壬寅 佛滅 建 星宿

▲一白　奮起して幸運を脫す可からず不時の變に警戒

▲二黑　齟齬を起し易き日人の言を過信せざるが吉

▲三碧　迷雲眼前に横りて行く手の定まらざる如し

▲四綠　萬事落付が肝心又目上の感情に觸れん注意

▲五黃　物事志と反して回復容易ならざるに至らん

▲六白　現狀を維持して安全を期すべき日病難注意

▲七赤　大事小事より崩るゝ事あり油斷す可からず

▲八白　安請合は大疵の基ひとなる情實に馳するな

▲九紫　調子能く物事の展開を見る日病難失物注意

おでん
たつた揚
やきとり
一平
平市一丁目

配達員募集
高等科生乃至中等校の生徒數名、優遇す
磐城毎日新聞社

生徒募集
一、募集人員
1、本科一年（二ケ年卒業）八十名
2、裁縫專修科一年（二ケ年卒業）八十名
3、師範科（二ケ年卒業）二十名
4、專修科（一ケ年卒業）二十名
5、『附設』洋裁科（六ケ月修了）二十名
二、入學手續
右各科入學者ハ本校規定在學證書ニ適當記入捺印ノ上三月三十日マデニ平市藤田女學校ニ提出ナサイ
但シ定員ニ充チザル場合ハ日限前ニ〆切ルコトアルカモ知レマセン
三、其の他
◎詳細ハ本校宛學則請求ナサイ（返信料三錢封入ノコト）
昭和十五年二月
福島縣平市田町
文部大臣認可
藤田女學校
電話三二八番

日立製作所 多賀工場從業員募集
工場所在地　茨城縣多賀町（常磐線常陸多賀驛）
採用人員　見習工員（機械、仕上、組立、鑄物、鍛冶、檢査、其ノ他）男、女事務員、運搬夫等若干名
資格　滿十六才以上四十五才迄
申込方法　履歷書持參ノコト
銓衡日時　昭和十六年二月二十四日（日）午前十時
場所　平國民職業指導所
旅費支給　銓衡地マデノ往復旅費（實費）及ビ辨當料ヲ支給
通勤手當　常磐線水戸驛、植田驛間及ビ常北電鐵太田驛、大甕驛間ノ汽車電車通勤者ニハ通勤手當支給
宿舍　男女共ニ設備アリ
平國民職業指導所